

詩集一卷、貴紳把卷聽之、不差一詩、

〔先哲叢談後編<sup>五</sup>〕石瀨濱

瀨濱、記性過人、每年至臘月、必買歷子一冊、糊塗之廁中壁上、之廁十二次、而暗記來歲十二月自支干運動時令、至晝夜短長節氣旺相之事、而後去、其糊以爲歷子展卷、在之廁間、不別費寸晷、

〔先哲叢談續編<sup>九</sup>〕藤水晶

水晶自少記性絕人、嘗遊于尾府、聞松平君山、名秀雲、字子龍、尾府圖書府監事、講說老杜、飲中八仙歌云、知章乘馬似乘船、眼花落地水底眠、其解水底眠者、辨說多端、而涉疑似、無復明解、水晶舉晉書王祥醉馮肩輿、頭不舉歸、其親戚戲之曰、子眼花在井底、身在水中、睡亦不睡耶、語而質問之、亦諳誦新唐書賀知章傳、以言其沈醉之情狀、君山爲之吐舌、時歲十五、

〔溫故堂堦先生傳〕十八と云ふ年寶曆十三年癸未に、一座の衆分となり、名を保木野一といふ、註もとよ略

り記臆すぐれしかば、やうやく其名を知る者あるにいたる、はじめ大人雨富が室に入し時、其教に任せ、三弦をならひけるに、今日習ひ得し物は、一夜の程に忘れて、明日は知らずなりけり、すべて三年の間に、一曲も全くは覺へざるのみか、調子さへ合ざりければ、雨富せんすべなくて、針治の術を旨に習はせけるに、醫書よむ方は人にすぐれて、二度よますれば、其次の度には、一文字もたがへずよむ程なりけれど、術にか、れば、人よりもはるかに劣れり、こは文よむかたにひかるればなるべし、

## 修學

修學ハ、古來之ヲ必要ノ事ト爲シテ、或ハ政府ヨリ獎勵スルコトアリ、或ハ賢哲ノ士ノ私ニ